

学校法人 福原学園  
平成24年度事業計画

平成24年3月

# 目 次

## 1. はじめに

## 2. 事業の概要

- (1) 学校法人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - 1) 大学改革の推進
  - 2) 教育研究環境の整備
  - 3) 財政基盤の確立
  - 4) 管理運営体制の整備
  
- (2) 九州共立大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
  - 1) 教育・研究の充実
  - 2) 学生支援
  - 3) キャリア支援
  - 4) 学生確保
  - 5) 学部等の改編
  - 6) 地域連携・地域貢献
  - 7) 国際交流
  
- (3) 九州女子大学・九州女子短期大学・・・・・・・・・・・・ 8
  - 1) 教育・研究の充実
  - 2) 学生支援
  - 3) キャリア支援
  - 4) 学生確保
  - 5) 学部等の改編
  - 6) 地域連携・地域貢献
  - 7) 国際交流
  - 8) 創立50周年記念事業の実施
  
- (4) 自由ヶ丘高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
  - 1) 教師の資質向上
  - 2) 進学実績の向上
  - 3) 部活動の推進
  - 4) 生徒募集の強化
  
- (5) 九州女子大学附属幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
  - 1) 折尾幼稚園
  - 2) 自由ヶ丘幼稚園
  - 3) 鞍手幼稚園

## 1. はじめに

福原学園は、建学の精神である「自律処行」の理念に基づき、平成20年度に策定した「福原学園設置大学中期計画」、ならびに平成22年度に策定した「中期財政計画」において目標と期限を明確にしたうえで、教育的側面にあつては教育研究の充実と学生サービスの向上、経営的側面にあつては安定的かつ永続的な経営基盤の確立に向け、教職員一丸となつて諸施策に取り組んでいる。

とりわけ本年度は、九州共立大学においては、昨年度完成したプール棟の稼働開始やグラウンドの人工芝敷設など施設設備の充実を図り、クラブ活動の充実、学生満足度の向上、地域スポーツ活動への貢献に資することとしている。

九州女子大学・九州女子短期大学においては、創立50周年の節目にあつて様々な記念事業を企画しており、女子教育の原点に立ち返るとともに更なる飛躍を目指し、教育内容の充実に努めることとしている。

自由ヶ丘高等学校においては、教員の資質の向上、生徒の「文武両道」の推進、広報活動の活性化により、「特色ある魅力的な学校づくり」を行う。

九州女子大学附属幼稚園においては、三幼稚園が連携を図りながらも、各々の特色が発揮できる体制を継続することにより、地域の要望に応えられる幼稚園を目指す。

これらのことを主眼に置き、本年度の事業計画を以下のとおり推進する。

## 2. 事業の概要

### (1) 学校法人

#### 1) 大学改革の推進

九州共立大学、九州女子大学、九州女子短期大学（以下「学園設置大学」という。）においては、学生・保護者が満足する教育サービス体制を確立するため、平成20年度に6ヶ年計画の中期計画を策定し、実行している。学園設置大学は、中期計画に掲げた取組事業に対する自己点検・評価を行い、当該年度の進捗・達成度評価と次年度の課題抽出・取組項目を立案することで、各年度の事業計画を策定している。

学園設置大学の改革の推進にあたり、本年度は、教育組織の充実と以下に掲げる項目を最優先課題として掲げ、事業計画の実行・点検・評価・改善に努めるものである。

##### ① 学部・学科改編の検討

学生募集状況等を踏まえ、九州共立大学経済学部、スポーツ学部、九州女子大学家政学部、九州女子短期大学専攻科について、学部・学科の改編等を念頭に置いた改組構想の検討を行う。

##### ② 共同実施制度による学園設置大学大学院設置の検討

現在、文部科学省で検討されている教員養成6年制に係る国の施策等も踏まえ、共同実施制度による学園設置大学大学院研究科の設置構想について検討を行う。

- ③ 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の検討  
本年度の新規事業として制定された「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の取組みを通じて、社会的・職業的に自立できる人材の養成を重視した学園設置大学の就業力育成事業を検討する。

## 2) 教育研究環境の整備

教育研究目的を達成するために、中期財政計画に沿って着実に施設・設備環境の整備を図る。

- ① 学園設置大学のネットワーク機器更新  
学園設置大学のネットワーク機器を更新し、併せてコンピュータウイルス等のネットワークを介する脅威への対策を強化する。
- ② 九州共立大学サッカー場及びラグビー場の人工芝敷設  
九州共立大学サッカー場及びラグビー場の排水設備を整備したうえで人工芝を敷設する。
- ③ 九州共立大学学生寮（福秀寮）の外壁改修  
経年劣化した九州共立大学学生寮（福秀寮）の外壁を改修する。
- ④ 九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館空調設備の更新  
経年劣化した九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館の空調設備を更新する。
- ⑤ 自由ヶ丘高等学校のパソコンソフトのバージョンアップ  
自由ヶ丘高等学校の情報教育用パソコンソフトのバージョンアップを図る。
- ⑥ 鞍手幼稚園の園舎増設  
鞍手幼稚園の園児数の増加対策として平成23年度末に着工した園舎増設を完成させる。
- ⑦ 老朽化建物建替計画、耐震調査計画の検討  
九州女子大学・九州女子短期大学本館を始めとする老朽化した建物の建替計画について検討を進める。また、耐震対策のため、建物の耐震調査計画を併せて検討する。

## 3) 財政基盤の確立

教育研究上の目的を達成するためには良好な財務状況を維持することが必要である。既に平成25年度までに財政収支状況を改善させることを目的として中期財政計画を策定しており、この計画で掲げている目標を実現するため、経費の削減を図り、平成25年度に向けた予算編成に努力する。

- ① 経費の抑制  
効率的な学校運営を行い、経費の抑制を図る。
- ② 財政収支の改善  
中期財政計画に掲げている目標達成実現に向けて、本年度予算を適切に執行する。また、平成25年度目標に基づいた予算編成を図る。

## 4) 管理運営体制の整備

人事の適正化、事務の効率化・合理化を図るため、事務職員の人事制度を充実させ、教育研究を支援する事務体制を整備する。

- ① 事務職員の人事制度の充実  
事務職員の人材育成と適正処遇が実現できる人事制度の構築に向け、等級資格制度、昇任昇格制度、管理職登用制度の原案作成、人事評価制度の見直し、

事務職員研修制度の検討を行う。

- ② 事務組織の機能・編成の見直し  
更なる事務の効率化、学生サービス機能の充実を図るため、事務組織の統廃合・再編、業務の集中化、事務職員の定員管理を検討する。
- ③ 組織の効果的・機動的な運営  
全学的な意思決定を効果的・機動的に行う体制を整備するため、各種委員会の見直し、事務情報化の推進を行う。
- ④ 教育職員、事務職員の協働体制の確立  
各種委員会に事務職員が参画し、教育職員、事務職員の一体的な運営を図る。
- ⑤ 危機管理体制の整備  
公益通報に係る規程を整備し、法令違反の抑制、早期発見を図る。また、東日本大震災を教訓として、防災体制の構築に向けた情報収集を行う。

## (2) 九州共立大学

### 1) 教育・研究の充実

教育機能、教育活動、教育支援、教室外学習の充実により、学習成果（ラーニング・アウトカム）の一層の充実を図り、設定した学習目標の達成を目指す。研究活動については、競争的研究資金の獲得を推進する。

- ① 教育専門能力の向上  
教育内容の改善、教育職員の相互研鑽、授業内容の実質化、質保証等を図るため、職員の職能開発「ファカルティ・ディベロップメント（FD）」、「スタッフ・ディベロップメント（SD）」を中心とした組織的な研究・研修を実施する。
  - ア. 授業評価学生アンケートの実施・充実
  - イ. 大学FD委員会主導による授業改善の実施
  - ウ. 「FD・SD研修会」の開催
  - エ. 学外者を交えたFD指導組織の設置
- ② 授業の充実  
キャリア、教養、専門、教職等の課程毎に重点化する教育目標を設定し、当該科目において、特に重視する教育目標を明確にする。さらに、授業毎に設定された授業到達目標への到達度を、到達への学習プロセスとともに成績評価の基準とし、教員と学生とがともに目標達成に向けて授業に臨む体制を築く。また、質の高い授業に向けて学生の自主的な教室外学習の充実を図る。
  - ア. 学外からのアクセスが可能になった授業記録システム「Syllabus On-Line」の利活用
  - イ. 学生の学力、学生満足度の向上（授業前後のケア、理解度テスト）
  - ウ. 入学時の基礎学力調査（テストの実施）とその結果をもとにした授業展開
  - エ. 少人数教育科目の導入
  - オ. 出席管理システムによる学生の就学状況のリアルタイムな把握
  - カ. 科目区分による成績評価基準の統一化、成績評価の公正、厳正化（GPA）

③ 教育組織の充実

授業満足度の改善・向上を実現するために、既存のシステムや組織を分析し、既存組織の更なる活用、より効率的な運用を図る。

- ア. 経済学部においては、学部運営の短・中期戦略として、BSC（バランススコアカード）の手法で戦略マップを策定して、学部教育目標を可視化し、学生目線に立った教育内容の充実を図るとともに、学力特待生プログラムを導入し、学力特待生に知識・技能・スキルや判断力・決断力・実行力を身につけさせ、学生満足度の向上に努める。
- イ. 教育内容の専門性をより明確にし、各コースでの主目標資格を体系的に位置付け、実社会で生かせるリーダーシップが発揮できる人材を育成する。
- ウ. 九州共立大学学習支援センターと、生涯学習研究センターの連携により、学生のニーズに即した内容の資格取得講座の検討を行う。
- エ. 学習・学生生活両面にわたる学生の就学支援体制を確立するとともに、障がい学生をサポートする支援体制の検討を進める。

④ 学習サポートの充実

修学レベルの底上げを組織的に行うため、入学前学習サポート、導入教育、補習教育等の教育活動において学習支援を行う。

- ア. 入学前学習サポートの実施（授業準備、基礎知識の確認、初年次教育との連携）
- イ. 図書館での新入生に対する情報リテラシー教育の実施
- ウ. 学習意欲向上を目指した九州共立大学学習支援センターの利用促進（やる気支援）とともに、授業理解を図るためのオフィスアワーの利用促進
- エ. 学部教育における資格取得の充実
- オ. 大学施設等の利用促進（キャンパスマイレージ制度の運用）

⑤ カリキュラム、プログラムの充実

資格取得のニーズに応えるべく教育課程等の充実を図る。

⑥ 共同研究、受託試験等の促進

産学官の連携強化を図るためには、本学が有する知的財産及び各教員の研究シーズを外部企業・官公庁のニーズとマッチングさせる必要がある。そのためには、本学の知的財産及び研究シーズを、一般に広く発信することが必要で、発信情報として教員の研究業績及び研究設備等を集約整理・分類し、それらをインターネットの情報検索で外部企業等が十分に認識できるように体制を整える。

- ア. 経済系・スポーツ系教員の研究活動情報の収集整理及び系統的な分類
- イ. 経済系・スポーツ系教員の研究活動環境の調査
- ウ. 経済系・スポーツ系教員の研究情報のホームページ上での広報
- エ. 研究成果のフェア出展等に関する体制の整備
- オ. 外部資金の積極的獲得・活用

⑦ 図書館の整備と活用

自学自習のための図書館機能とサービスの提供、図書資料の充実を図り、利用者の増加を目指すとともに、新しい学術情報のあり方に適応する機能を整備し、利用者のニーズに応じて効果的なサービスを提供する。

## 2) 学生支援

多様化した学生生活環境における学生の主体的取組を促進するため、学生生活の支援を強化・充実することにより、学生サービス及び満足度の向上を図る。

### ① 健全な学生生活の提供

帰属意識の醸成、仲間づくり、在学生のフォロー等の観点からオリエンテーション、ガイダンス、日常の窓口対応の充実を図り、学生生活がより有意義なものとなるよう支援する。

### ② クラブ・サークル活動の活性化

クラブ・サークル活動の広報・勧誘活動を活性化し、全学生の55%がクラブ・サークル活動に参加できるよう、練習場確保、部室提供等の環境整備や支援を行う。

### ③ 人間形成支援体制の構築

学生が主体的に運営する組織を再構築し、その運営の指導・管理を徹底することにより、組織の充実を図る。

### ④ キャンパスミーティングの活用

学長、副学長、学部長等と学生代表者との定期的な意見交換により、学生のニーズを確認し、学生サービス及び満足度向上を図る。

## 3) キャリア支援

大学及び学部の教育目的に基づき、社会的・職業的自立を図るために必要な能力（生涯を通じた持続的な就業力）を育成することを通じて、一人ひとりのキャリア発達を促す教育を教育課程の内外で展開し、社会の期待に応えることができる人材を養成する。

### ① シナジー創出型教育の推進

生涯キャリア支援教育（キャリアデザイン科目）の内容・水準に十分な留意を注ぎつつ、現行の実学的専門教育及びインターンシップの更なる充実に努め、本学が推進している「私力（わたしりょく）」を育成する。

ア. 現代GP「生涯キャリア開発型教育システム」の実績を土台とした「生涯キャリア支援による就業力育成」の取組みの継続

イ. 実学的専門教育の内容・水準に十分留意（学士力の確保）した就業力の育成との間にシナジー効果を創出する教育の志向

ウ. インターンシップの拡充と定着（現行システムの更なる拡充と起業体験型・課題解決型インターンシップの定着）

エ. 専門職員（キャリアカウンセラー）によるキャリア教育支援・個別相談指導の充実

### ② 就職決定意識の啓発

生涯キャリア支援教育との連携を図り、CPSイベント、座談会、講座等を実施するなどキャリア教育の側面を支援する特別プログラムを実施する。

### ③ 就職活動支援の強化

ア. 学生の資質や能力、就職環境に応じた就職ガイダンスを行い、社会人として身につけておくべき能力や就職活動に必要となる情報を提供し、また、「学内合同企業セミナー」を開催する。

イ. 産官学連携を活用した産学協働による就職支援の取組みを深めるため、43大学が連携した九州地区大学就職指導研究協議会と北九州市、北九州商工会議所

が協働した就職支援の取組みに、本学キャリア教育担当者と就職支援課が協働し積極的に関与する。

④ 資格取得支援における学部教育との連携

ア. 経済学部 公務員試験合格者8名以上

公務員受験希望を明確に持っている学生に対して、1・2年次から勉強に取り組める体制を整備する。

i. 公務員受験希望者の募集

ii. 勉強会の実施

iii. 模擬試験の実施

イ. スポーツ学部 保健体育教員採用試験合格者5名以上

スポーツ学部における保健体育教員の採用は着実に伸びている。教員免許取得希望者を対象として、「教員採用候補者試験」へ向けての教員養成セミナーを開催し、保健体育教員採用試験の合格へ向けたサポートを行う。

i. 教育実習事前学習（4年）

ii. 授業づくり・模擬授業（3年）

iii. 教員採用試験対策講座（4年）

iv. 教員養成セミナー（2・3年）

4) 学生確保

本学のビジョン「大学も学生も、有言実行で、あらゆる面での『No.1』を目指す。」を、あらゆる面で具現化し、安定的な志願者の確保及び入学者の増加を図るべく効率的かつ効果的な学生募集戦略を展開する。

① 大学全体の学力偏差値の底上げ

一般入試、大学入試センター利用入試、学力特待生入試による志願者、入学者の増加を図る。

ア. 他大学との差別化を図った学力特待生制度の構築

イ. 受験生、保護者、高校教員にとって分かりやすい入試制度への改正

② 学生募集実施策における内容の充実及び強化

ア. 高校3年生だけでなく、1・2年生に対する、本学への「大学見学」（1高校20人～80人程度）の積極的なアプローチ

イ. 高校教員を対象とした、本学主催の「大学説明会」における、実施会場の増設

ウ. 本学ホームページにおける、受験生に分かりやすい、検索しやすいレイアウト、内容への改正（携帯及びスマートフォンへも対応）

エ. オープンキャンパス参加者増加のための新企画及び内容の充実

5) 学部等の改編

経済学部は、現行の教育体制の検証を十二分に行い、学習成果を重視した教育課程の改編を検討する。スポーツ学部は、人材育成ニーズに応じて現行の教育体制の点検・評価を行い、新たな学科の開設を検討する。

6) 地域連携・地域貢献

地域あつての大学であることを念頭に、地域社会に対するサービスの提供を心がけることにより、良好な協力関係を積極的に構築する。

① 地域企業・他大学との連携

地域の高等教育機関・地域交流の場として活動体制を整備するとともに、本



学教員の研究業績及び研究設備等を集約整理・分類し、インターネットの情報検索で外部企業等が十分に認識できる体制を整える。

- ア. 学園の研究、実験設備を利用したオープン・ラボ、レンタル・ラボ構想
- イ. K I G S（北九州イノベーションギャラリー&スタジオ）との連携強化（エンジニアリングカレッジ等の連携・共同企画・推進）
- ウ. 地域大学との授業交流（大学コンソーシアム関門）
- エ. 大学の教育研究活動などの状況に関する情報の積極的な社会への提供

② 高大連携強化

オープンキャンパスや出前講義により、高校と大学の相互理解を図るための連絡協議会を設置し、高校生への個別指導と推薦入試との連動を図る。

- ア. 系列高等学校との連携強化
- イ. 近隣高等学校との連携拡大

③ 地域の生涯学習機会の充実（大学施設の開放等）

大学の施設の開放、専門的知識・技術の提供等を通じて社会人キャリアアップや地域の振興等の支援を行う。

- ア. 公開講座プログラムの拡充
- イ. 行政、地域団体との連携強化
- ウ. ボランティア活動支援強化及び主催行事の推進
- エ. 「生涯学習研究センター人材バンク」の整備と拡充

## 7) 国際交流

国際化への対応として、世界各国との交流を活発化する。協定校との学生の相互交流として、協定校からの編入学生、短期留学生の受入れを継続し、留学生に対する支援体制の構築を図るとともに、本学学生の協定校への留学を促進する。また、協定校からの教員受入れを引き続き実施するとともに、留学生の日本語教育等の充実を図る。

① 協定校との学生相互交流の推進

本学へ協定校から編入学生や短期留学生の受入れを継続的に実施し、留学生の受入れを増やすために新規協定校の開拓等を行う。また、相互交流の派遣として、本学学生に協定校への留学の案内を細かに言い促進する。

② 教員相互交流の推進

大連外国語学院、内蒙古大学との学術交流、教員交流、教員受入れを引き続き実施するとともに、新たに上海師範大学天華学院との学術交流・教員交流を推進する。

③ 留学生支援体制の充実

日本語教育の充実、履修指導、生活支援の他、留学生のための就職支援等の更なる充実を図る。

### (3) 九州女子大学・九州女子短期大学

#### 1) 教育・研究の充実

教育活動については、学生の学習意欲を喚起させ、学習成果（ラーニング・アウトカム）が社会貢献に繋がる教育を実践する。また、研究活動については、外部資金の獲得や地域社会との研究活動の連携強化を促進し、学習目標を達成するための基礎となる研究活動の成果を授業内容に反映させる。

##### ① 学生の質の維持・向上

学生が修得すべき学習目標に従い、専門的な学芸を教授するとともに、幅広く深い教養、総合的な判断力を培うため、教養教育やキャリア教育を充実強化し、豊かな人間性を滋養する教育を行う。

##### ア. 成績評価法、成績評価基準の明確化及び周知

全科目について、成績評価法・成績評価基準のシラバスへの掲載や学生への周知を引き続き実施する。また、シラバスを本学ホームページ上で公開する。

##### イ. キャリア教育の充実と教養教育の充実、教養科目の組織的な再編成

現代社会で生きるために必要な「人間力」、「就業力」を育成するため、教養教育の充実、キャリアデザイン科目の開設等を平成22年度から九州女子大学全学部の教育課程に導入した。本年度は、学年進行に伴う新たなキャリアデザイン科目を開設し、キャリア教育・教養教育のさらなる充実を図る。また、九州女子短期大学についても、キャリアデザイン科目の開設や少人数制の授業形態の導入、実践力演習報告会などにより、職業人として社会に貢献できる人材を育成する。

##### ウ. 少人数ゼミによる導入教育（フレッシュマン教育）の実施

平成22年度より人間科学部では「基礎総合演習」を廃止し、新入生に対する導入教育を1年前期の「キャリアデザインⅠ」にて実施している。今後の導入教育においては、専門教育への円滑な移行を考慮した演習形式の授業内容も導入すべく、共通教育機構での検討を行う。

##### ② 授業改善の支援体制の整備

分かりやすい授業の提供や効果的な授業方法の改善等を図るため、FDを中心とした組織的な研修等を実施する。

##### ア. FD推進委員会の効果的運用

授業フィードバックアンケートにおける授業満足度を向上させるため、教員による授業相互参観を全教員にて継続的に行い、授業参観後の検討会を開催し、授業改善に取り組む。また、アンケートの結果に基づいたFD研修会を企画実施し「授業における話し方、説明の仕方の向上」を図る。さらに、過去の授業フィードバックアンケート集計データの分析を外部機関に依頼し授業改善に繋げる。

##### イ. 教室内設備機器の更新

平成23年度に策定した教室内設備更新計画に基づき、各年度予算の範囲内で整備を進める。

##### ③ 教育組織の充実

教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化を図るため、教育研究を適切に

遂行するにふさわしい運営の仕組みを構築する。

- ア. 九州女子大学家政学部人間生活学科においては、5領域の学問分野の教育内容を充実させ、多様な免許・資格を取得させ就職率の向上に努める。同学部栄養学科においては、国試対策講座、リメディアル教育等、入学時から職業への動機づけを行う等教育指導体制を充実・強化し、管理栄養士国家試験合格率90%以上を目指す。
- イ. 九州女子大学人間科学部人間発達学科においては、開設3年目を迎え、設置の趣旨に基づいた教育課程を着実に履行し、多彩な免許・資格を生かすことのできる人材の養成に努める。
- ウ. 九州女子短期大学子ども健康学科においては、完成年次の2年目を迎えることから、教育課程を着実に履行し、教育実習や職業体験を通して社会が求める実践的な能力を身に付けた人材の養成に努める。

#### ④ 社会的ニーズへの対応

高等教育機関として、社会が求める人材育成に応えるべく外部の機関等との連携を強化する。

##### ア. 教育実習現場等との連携強化

近隣地域の小学校への学校ボランティア活動は、その体験が教育実習に効果的であるため、今後は、更なる参加対象校の拡大に向け、他地域の教育委員会に受入れを働きかける。また、北九州市立子育てふれあい交流プラザ、行橋市地域子育て支援センター、障害児通園施設等の活動を通じ地域貢献を図る。

##### イ. 認証評価及び相互評価の実施

(財)大学基準協会の次回認証評価受審に向け、平成23年度から施行された「大学基準」に則り、自己点検評価を実施する。

#### ⑤ 研究活動の促進

科学研究費補助金の説明会の開催や申請業務の補助を行うとともに、個人研究費を傾斜配分し、その一部を成果配分研究費として配分する等、研究活動に対する組織的な支援を行う。

- ア. 競争的研究資金（科研費等）へ対象教員75%以上の応募や共同研究の積極的な推進
- イ. 地域社会との研究活動に対する連携強化及び支援体制の整備
- ウ. 優れた研究活動に対する報奨的資金として成果配分研究費の支給
- エ. 研究活動の成果に対する点検・評価の実施

#### ⑥ 教育研究環境

図書館において以下の取組みを行うなど、教育研究環境を整備して自主的・自発的学習を促進させるとともに、学内外へ研究成果を公開しながら、研究活動を拡充させる。

- ア. 新入生や在学生を対象とした図書館資料や学術論文の検索方法の指導
- イ. 大学研究紀要に関する電子媒体化の推進と複製権・公衆送信権を許諾した論文の公開

## 2) 学生支援

学生生活支援の充実のため、学生生活における多様化したニーズに対応した学生サービスを提供する。

① 相談・助言体制の整備

ア. 総合相談窓口「九女ルーム」の活用

学生の多様化したニーズに対応するため、支援内容を充実させる。特に、厳しい就職事情を考慮し、キャリアカウンセラーの配置を継続する。また、「九女ルーム」について、新1年生の認知度100%を目指し、利用満足度70%を維持する。

イ. 生活マナーの指導強化

各公共団体の支援協力により、生活マナー講習会を実施する。学生の参加動員数を各回100名以上確保できるように努める。

② 経済支援の一層の充実

各種学外奨学金の情報収集を行いながら、学生の就学条件を満たしていくとともに、後援会の支援事業や同窓会による支援事業の充実に努める。

③ 学生ニーズの組織的な聴取

学生満足度を向上させることを目的として、定期的にキャンパスミーティングを開催し、学生代表との意見交換を通じて学生のニーズを直接聴取する。また、学生満足度アンケートを継続的に実施し、学生のニーズの把握に努め、学生指導に繋げることで、学生生活満足度を全国平均（60%）以上にする。

**3) キャリア支援**

学生生活支援の充実のため、授業以外の学生生活における多様化したニーズに対してキャリア支援を行う。

① 就職活動支援の充実

平成23年度で終了した学生支援推進プログラムの結果を検証し、継続すべき就職支援事業を選択するとともに、更なる充実を図り、就職率（就職者／就職希望者）90%を維持する。

② 就業力支援事業の実施

九州女子短期大学においては、就業力支援事業の一環として、新規事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の申請と補助金獲得に努める。また、学生支援推進事業により実施した企業に対する人材アンケート及び雇用主による卒業生の実績評価について、3年間のアンケート結果を取りまとめ、点検評価を行う。

③ 免許、資格支援体制の強化

各学科・専攻にて取得可能な免許資格について、教員採用試験対策講座を始めとする免許資格取得及び就職に向けた支援事業を促進し、各学科等の目標を以下のとおり設定する。

(人間生活学科)	免許・資格取得率	85%
	家政学研究会学生参加率	80%
(栄養学科)	管理栄養士国家試験受験率	100%
	管理栄養士合格率	90%
(人間発達学専攻)	小学校教員採用試験受験率	60%
	小学校教員採用試験一次合格率	70%
	小学校教員採用試験二次合格率	30%
(人間基礎学専攻)	一般教養対策受講率	80%
	就職セミナー受講率	80%

(子ども健康学科) 幼稚園・保育所就職率	100%
養護教諭二種採用試験受験率	70%
養護教諭二種採用試験一次合格率	5%
養護教諭二種採用試験二次合格者	1人以上
(養護教育学専攻) 養護教諭一種採用試験受験率	100%
養護教諭一種採用試験一次合格率	30%
養護教諭一種採用試験二次合格率	15%

#### 4) 学生確保

受験者数を入学定員の2.5倍を目標に様々な学生募集活動を展開する。また、“高い進路決定率”等の本学の強みを積極的に広報するとともに、入試区分の改善を図り、受験生にとって、大学が求める学生像を明確にし、受験しやすい入試を実施する。

##### ① 学生募集活動の充実

- ア. 各種メディア媒体等（パンフ、ポスター、リーフレット、DM、相談会等）を通じて、本学が受験生に向けて打ち出している、イメージ・キャッチコピー「九女“なでしこ”」の定着を図る。
- イ. オープンキャンパスや大学説明会における本学の学部・学科紹介に活用する案内ソフトの充実を図る。
- ウ. 効果的かつ戦略的な高校訪問を実施する。
- エ. 同窓会「梅香会」を活用した募集活動を実施する。
- オ. 在学生が恩師を訪ね近況を報告する「母校訪問大使」を拡大して実施する。
- カ. 在学生が母校の後輩等に本学の学部・学科の教育内容を知らせる「近況報告レター」を作成し、出身高校に届ける。

##### ② 入学者選抜方法等の充実

- ア. 入学者受け入れ方針の明確化  
入試要項等により、広く本学アドミッションポリシーの周知を図る。
- イ. 入学者選抜方法の充実  
入学者選抜方法や選抜基準を見直し、受験生が受験しやすい入試区分を構築する。

#### 5) 学部等の改編

九州女子大学家政学部は、現在の社会情勢や本学を取り巻く環境及び現状を踏まえ、教育課程の改編を検討する。また、九州女子短期大学子ども健康学科は、本年度に完成年次を迎えることから、卒業生の進路を確保するため、新たな専攻科の開設を検討する。

#### 6) 地域連携・地域貢献

地域社会との研究活動等を連携強化し、大学の知的財産を地域社会に還元するとともに、大学の認知度の向上を図るため、教育職員の研究内容を中心とした情報公表を促進し、地域のニーズ等情報収集を組織的に行う支援体制を整備する。

- ① 学校教育法施行規則の改正に基づく教育情報の積極的な公表
- ② 学生によるボランティア活動の継続的な実施と支援強化
- ③ 地域子育て支援ネットワークの構築
- ④ 「生涯学習研究センター人材バンク」の整備と拡充

## 7) 国際交流

国際化への対応を実施していくために、協定校との学術交流・学生交流・教員交流を中心に交流の拡大を図る。

### ① 協定校との学生相互交流の推進

上海師範大学天華学院、内蒙古大学からの編入学試験の検討、上海商学院との基本協定の締結を推進する。また、新たな協定校の開拓を行い、本学へ協定校から編入生30名、短期留学生26名の受け入れを継続的に確保する。

### ② 教員相互交流の推進

上海海洋大学との学術交流や中華女子学院との共同研究・教員交流を引き続き実施するとともに、新たに湖南女子学院、上海師範大学天華学院、内蒙古大学との学術交流を推進する。

### ③ 留学生支援体制の充実

多様な留学生の入学に伴う、教育課程の見直し、履修指導、生活支援及び就職支援等のあり方について、国際交流委員会を中心に抜本的な見直しのための検討を行う。

## 8) 創立50周年記念事業の実施

九州女子大学が、創立50周年を迎え、九州女子短期大学の創立50年と併せ九州女子大学・九州女子短期大学創立50周年記念式典及び祝賀会等、各記念事業を実施する。

## (4) 自由ヶ丘高等学校

### 1) 教師の資質向上

学校は教育目標を達成するための組織体である。「特色ある魅力的な学校」づくりを行なうためには、教師が協働してその具現化に向け、主体的かつ創造性豊かに教育活動に励むとともに、教育的情熱に燃え続けることが大切である。学校改革は教師の意識改革が最も重要である。

#### ① 「評価と改善」に立脚した「組織的実践力」の向上

評価活動（自己評価・授業評価）及びマネジメントサイクル（P・D・C・A）の徹底を図り、効率的・組織的な教育活動の推進を図る。

#### ② 組織力向上に向けた教職員の「意識改革」の推進

校内研修を通して教育専門職としての使命感及び実践的指導力の向上を図る。

#### ③ 生徒の夢（進路希望）を現実化できる「組織的教育力」の向上

正課授業を重視するとともに、学習指導法の研究、授業の工夫・改善に努め「分かる授業」の推進を図る。

### 2) 進学実績の向上

本校の教育目標、教育方針に沿って、生徒の学力などを踏まえ、コース・クラスの特色を生かした教育の充実を図り成果を上げる。

#### ① 教科指導の強化

コース・クラス、文系・理系の学習指導について、年間を通して授業時間数を確保するとともに教科指導・生徒指導の体制強化により、学力の底上げを図り、進学実績の着実な前進を目指す。

## ② 受験対策指導の強化

受験対策指導の強化を図ることにより、難関国立大学・私立大学の現役合格者の増加を目指し、進学校としての礎を確固たるものにする。併せて、系列大学との連携を強化する。

## 3) 部活動の推進

部活動に積極的に取り組むことにより、学年・クラスを越えての交流が図れ、協調性や忍耐力を身につけることができる。このことは、人格形成や身体的な成長にとって非常に大きなものがあり、本校の教育方針である「人間開発」・「学力開発」にも繋がり、卒業後の長い人生においても大きな財産となる。また、部活動による学校全体の活性化は、本校の掲げる「文武両道」の学校づくりにも繋がるため、加入率60%を目標に部活動の活性化を図る。

## 4) 生徒募集の強化

就学人口の減少、公立高校の授業料無償化、厳しい経済状況など本校を取り巻く環境は大変厳しいものがある。このような中、志願者数・入学者数を安定的に確保するため、中学校・塾に対する積極的な広報活動を推進する。特に本校の教育内容・教育施設・進路実績・部活動実績などの情報を学校案内やホームページ、キャンパスツアー、塾説明会を通して中学生・保護者・中学校・塾に効果的・効率的に発信することで本校のPRを図る。

# (5) 九州女子大学附属幼稚園

三幼稚園が相互に連携を図るとともに、各幼稚園の特色を活かして、保育内容、教育課程外活動、職員研修等を充実し、大学・地域との連携を促進する。

## 1) 折尾幼稚園

### ① 園児の確保

- ア. ホームページの更新、幼稚園ネットへの登録継続等の広報活動の強化
- イ. 未就園児教室（ふれあい広場）の充実

### ② 保育内容の充実

- ア. 園の教育目標達成に向けた保育活動のシステム化
- イ. 日々の保育活動の質的向上
- ウ. 小学校入学直後の児童に見られる問題行動（小1プロブレム）の解消に向けた小学校との交流

### ③ 大学・地域との連携

- ア. 学園設置大学との連携による運動教室等の充実
- イ. 地域の福祉施設との連携

### ④ 研修の充実

園児の夏休み期間を利用して研修会を実施する。

### ⑤ 教育課程外の充実

保護者のニーズに応え、サッカー教室、ピアノ教室、英語教室等を実施する。

## 2) 自由ヶ丘幼稚園

- ① 園児の確保
  - ア. ホームページの更新、幼稚園ネットへの登録継続等の広報活動の強化
  - イ. 未就園児教室（わくわく保育）の充実
- ② 保育内容の充実
  - ア. 園の教育目標達成に向けた保育活動のシステム化
  - イ. 日々の保育活動の質的向上
- ③ 大学・地域との連携
  - 運動教室、リトミック指導等を学園設置大学との連携により充実させる。
- ④ 研修の充実
  - ア. 園児の夏休み期間を利用した研修の実施
  - イ. 各教育職員のテーマに沿った個人研修の実施
- ⑤ 教育課程外の充実
  - 保護者のニーズに応え、ピアノ教室、英語教室等を実施する。

## 3) 鞍手幼稚園

- ① 園児の確保
  - ア. 魅力ある未就園児教室（ぐんぐんクラブ）の開設と充実
  - イ. 広報活動の拡充
  - ウ. 安定的な園児確保とブランド幼稚園の創造
- ② 保育内容の充実
  - ア. 5つの心（明るい心・素直な心・感謝の心・反省の心・積極的な心）を備えた子どもの育成
  - イ. 自然環境との対話により生命尊重・優しい心を備えた子どもの育成
  - ウ. 美しいもの美しいと感じる豊かな感性を備えた子どもの育成
- ③ 大学・地域との連携
  - ア. 近隣の小学校との交流活動
  - イ. 地域行事への参加・協力
  - ウ. 学園設置大学との連携による「運動遊び」、「絵画教室」等の実施
  - エ. 米作りから収穫までの体験活動（年長組）と収穫祭の実施
  - オ. 地域の「名人さん」の発掘（名人バンクづくり）と体験活動
- ④ 研修の充実
  - ア. 教育効果を高めるための理論と実践の研究（園内研修、園外研修）
  - イ. 研修会等参加者の報告会と協議
- ⑤ 教育課程外の充実
  - 「スポーツ教室」、「絵画・造形教室」、「ECC英語教室」等を実施する。